

連載企画

自動車リサイクル業界を
担うホープ(15)

名前:小池 悠太(こいけ ゆうた) (27歳)

所属:アール・ループ株式会社 (千葉県柏市)

担当:再資源部

特技:いろいろな種類のお酒を呑んでも酔わないこと

MBTI:擁護者型(実行力があり、多才な上に、繊細で思いやり深い面がある。分析能力も高く、細かいことにもよく気づくタイプ)

— 仕事で誰にも負けない部分
体力— この業界の魅力を一言で
多種多様な車両を運転し作業が
できること— 将来の業界への期待
新車をもっと出回り、リサイクルす
る車両が増えてほしい

※MBTIとは認識・決定理由・処理方法など16タイプの性格に当てはめるテストで、キャリアの適性判断、チームワークの強化、最近ではアイドルのプロフィールなど様々な分野で利用されています。

INDEX

【連載企画】自動車リサイクル業界を担うホープ/巻頭言 —— P.1

2025年度定時社員総会&懇親会レポート —— P.2.3

資源回収インセンティブ制度 説明会開催のお知らせ/2025年度自動車リサイクル士新規講習会 申込締切迫る! —— P.4

5月新車販売・使用済自動車発生台数/中古車輸出に係る返還台数 —— P.5

賛助会員紹介/賛助会員&バナー広告の案内 —— P.6

鉄スクラップ最新情報 —— P.7

行事予定・お知らせ / 編集後記 —— P.8

巻頭言

広報部会

伊地知 志郎

4月に新卒スタッフが入社し、生産課に配属されてから3カ月が経ちました。自動車免許の取得に苦労していたようですが、最近は仕事にも慣れてきたようです。私の頃は、空き時間に自由に教習車へ乗れましたが、今は1日2時間までと制限があり、AED講習の受講も義務化されているそうで、時代の変化を感じました。

6月1日からは労働安全衛生規則の改正により、熱中症対策の実施が義務となりました。スタッフの体調管理に一層気を配りながら、効率的に作業を進めていく必要があります。そんななか、先日見た新聞に、“自動車解体をロボットが担う”という内容が掲載されていました。素材ごとの分別・回収の精度が高まれば、循環型経済の実現にも繋がるはずです。

2026年に始まる“資源回収インセンティブ制度”も視野に入れつつ、誰もが実践できる効率的な回収体制の整備を進めていきたいと思っています。

02

JAERAに集う知見と熱意、語られる自動車リサイクルの未来

JAERA2025年度定時社員総会・会員交流会・懇親会をレポート

■節目の年にふさわしい意義深い総会

一般社団法人日本自動車リサイクル機構（JAERA）は、2025年6月17日（火）、東京都中央区の鉄鋼会館にて「2025年度定時社員総会」ならびに「会員交流会・懇親会」を開催しました。今年は、自動車リサイクル法が施行されてから20年という節目の年にあたり、業界のこれまでの歩みを振り返るとともに、次世代に向けた展望を共有する重要な機会となりました。

社員総会の冒頭では、石井浩道代表理事が挨拶に立ち、全国各地で開催されたブロック会議を通じて、業界の変化を実感していると述べました。特に、社会や環境の変化が加速する中で、「変革の時代においては、変化を正しく理解し、受け身ではなく主体的に対応することが重要である」と強調。さらに、資源回収インセンティブ制度など新たな制度の活用を通じて、持続可能な成長と健全な市場形成を目指す姿勢を明確にしました。



社員総会の様子

■2024年度の事業報告と2025年度の展望

続いて、2024年度の事業報告と2025年度の事業計画が審議され、すべての議案が承認されました。コロナ禍で一時中断されていた部会活動報告も行われ、「誰もが輝ける未来づくり」というJAERAの理念のもと、会員サービスの拡充や制度改善に向けた取り組みが進められていることが報告されました。これにより、JAERA会員の皆様への情報やサービスの提供が拡大し、組織全体の活性化が期待されます。

■会員交流会での資源回収インセンティブ制度説明会と意見交換

総会後に行われた会員交流会では、阿部知和専務理事が登壇し、資源回収インセンティブ制度とワイヤーハーネス共同出荷事業について説明しました。インセンティブ制度に関しては、現場で求められる管理内容を具体的に示した手引書の作成と公開が予定されており、参加者からは制度の実効性や業界への波及効果など様々な質問が寄せられました。また、ワイヤーハーネスの共同出荷事業については、銅資源の国内循環という観点からも重要性が高く、今後の展開に注目が集まっています。

■豪華な来賓を迎え、交流と展望が語られた懇親会

懇親会では、業界内外から多くの関係者が一堂に会し、盛大に開催されました。自動車リサイクルの歩みを振り返るとともに、今後の業界の発展に向けた意見交換が活発に行われ、業界関係者同士の交流がより一層深まりました。また、この特別な機会には、政界・行政・業界などで活躍する豪華な来賓の方々にもご出席いただき、貴重なご挨拶を頂戴しました。

02 ▶ JAERAに集う知見と熱意、語られる自動車リサイクルの未来

自由民主党の茂木敏充前幹事長は、「未来の子どもたちに美しい地球を引き継ぐため、リサイクル推進に取り組みたい」と述べました。また、環境省の角倉一郎様は「循環型社会形成推進基本計画」に基づく政策展開について言及され、経済産業省の原充様は、自動車リサイクル法の見直しに向けて、現場の声を反映した制度改善を図る意向を示し、業界の実情に即した政策形成の重要性を強調しました。

日本自動車工業会の嶋村高士様は、ChatGPTなどのAI技術を活用した業界分析の可能性に触れ、知見を持ち寄ることで未来を切り拓く重要性を語りました。また、自動車リサイクル促進センターの永井辰幸様は、能登半島地震で焼損した車両の撤去支援に対する謝意を述べるとともに、制度の今後の展望について前向きな姿勢を示しました。



左から：日本自動車リサイクル機構 石井 浩道 代表理事
自由民主党 前幹事長 衆議院議員 茂木 敏充 様
環境省 環境再生・資源循環局 次長 角倉 一郎 様
経済産業省 製造産業局 自動車課 自動車リサイクル室長 原 充 様



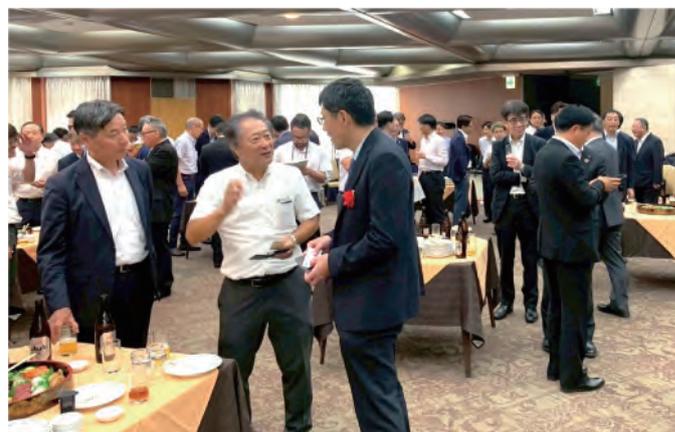
左から：日本自動車工業会 環境技術・政策委員会 リサイクル・廃棄物部会 部会長 嶋村 高士 様
自動車リサイクル促進センター 専務理事 永井 辰幸 様
自動車再資源化協力機構 代表理事 兼 日本自動車工業会 環境技術・政策委員会 リサイクル・廃棄物部会 副部会長 堂坂 健児 様
日本自動車リサイクル機構 阿部 知和 専務理事



挨拶に耳を傾ける

今回の懇親会には、行政、業界団体、関連企業など多様な分野から多くの参加者が集まり、JAERAの取り組みが社会的・政策的に重要な位置づけであることが改めて確認されました。JAERAは今後も、会員の皆様の知見とネットワークを活かしながら、自動車リサイクル業界の適正化と持続的発展に貢献していく方針です。

乾杯の挨拶は、自動車再資源化協力機構および日本自動車工業会の堂坂健児様が務め、懇親会は例年以上に盛況となりました。中締めでは阿部専務理事が「外的要因に左右されない強い業界体制の構築が急務」と語り、関係団体との連携強化を呼びかけました。



懇親会の様子

03 ▶ 資源回収インセンティブ制度 説明会開催のお知らせ

資源回収インセンティブ制度（樹脂回収の内容限定）に関する説明会を全国開催！

JAERAでは、**資源回収インセンティブ制度に関する説明会**を全国で開催いたします。会場参加に加え、WEBでの参加も可能となる予定で、JAERA会員はもちろん、JAERA会員外の方もご参加いただけます。

資源回収インセンティブ制度は、使用済自動車から回収した樹脂（バンパーや内装材）やガラスの回収量に応じてインセンティブが付与される仕組みで、自動車リサイクルの安定化や資源循環の発展を目的としています。（制度は2026年4月より開始予定）

今回の説明会では、**樹脂回収に関する内容に限定**して、JAERAが作成した「資源回収インセンティブ制度に関する手引書」に基づき、制度の概要をはじめ、参画に関する情報や、実際にどのような作業が必要となってくるかなど、現場視点で詳しく解説します。また、制度導入による業務への影響や、効率的な運用方法についても具体的な事例を交えて紹介する予定です。

説明会の開催時期は2025年7月から11月頃を予定しておりますが、具体的な日程や会場などの詳細は、後日改めてご案内いたします。制度への理解を深める貴重な機会となりますので、ぜひご参加ください。



※イメージ

04 ▶ 2025年度自動車リサイクル士新規講習会 申込締切迫る!【7月18日（金）必着】

2025年度「自動車リサイクル士 新規講習会」申込受付を実施中!

JAERAでは、2025年度の「自動車リサイクル士 新規講習会」の申込受付を実施中です。

この講習会は、自動車リサイクル法に基づく使用済自動車の適正処理を促進し、将来的な優良事業者（会社）育成のために必要な技術・知識を持った「自動車リサイクル業における模範となる人材」を育成することを目的としております。

今年度も、WEBで配信される動画を視聴した後、全国7会場の試験会場で受験する方式で、現場の皆様の負担も軽減した開催方法です。

自動車リサイクル法の基本に始まり、引取工程、フロン類回収工程、解体工程、破碎工程、安全作業や衛生管理など、現場で役立つ実務知識が体系的に学べる内容となっており、新入社員だけでなく、制度を再確認したい管理者の方にもおすすめです。

申込締切は【7月18日（金）必着】と迫ってきています。受講枠には限りがありますので、検討中の方はお早めにお申し込みください!

講習の詳細・申込は[こちら](#)



会場	定員	日時	会場名
札幌会場	30名	10月03日(金) 14:00 ~ 15:00	札幌市教育文化会館
東京会場	100名	10月08日(水) 14:00 ~ 15:00	赤羽会館
仙台会場	30名	10月16日(木) 14:00 ~ 15:00	東京エレクトロンホール宮城
名古屋会場	30名	10月22日(水) 14:00 ~ 15:00	日本特殊陶業市民会館
大阪会場	20名	10月23日(木) 14:00 ~ 15:00	国労大阪会館
岡山会場	30名	10月24日(金) 14:00 ~ 15:00	岡山市勤労者福祉センター
福岡会場	30名	10月31日(金) 14:00 ~ 15:00	福岡県立ももち文化センター

■自動車リサイクル士資格 更新講習会のお知らせ（2025年度更新対象の皆様）

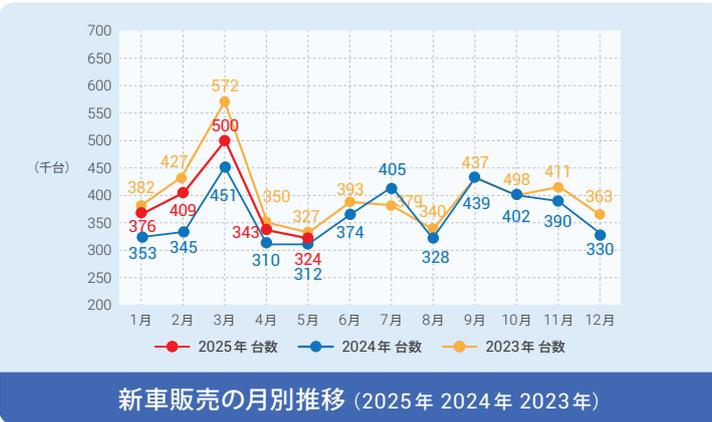
自動車リサイクル士の資格は、取得から5年間が有効期限となっております。**2025年度に更新対象となる皆様には、8月頃に別途ダイレクトメール（DM）をお送りいたします。**

05

5月新車販売・使用済自動車発生台数・中古車輸出に係る返還台数

2025年5月の台数動向、
新車販売は堅調、使用済車・輸出返還は前年割れ

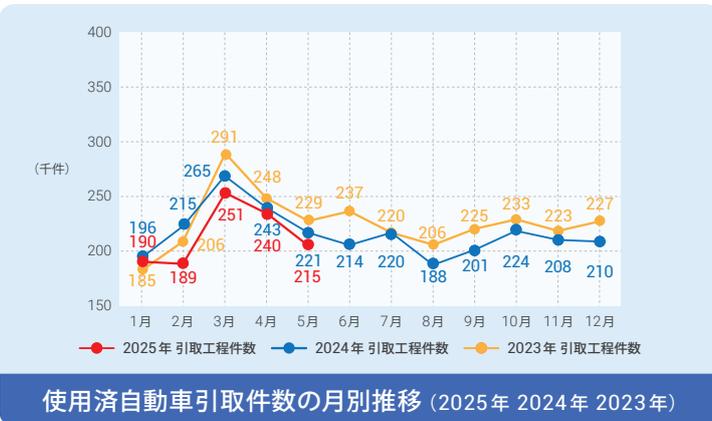
■2025年5月度 新車販売台数 324,069台 (前年同月比103.7%)



年累計	台数 (台)	前年比 (%)
2025年 (5月まで)	1,952,299	111.3
2024年	4,421,494	92.5
2023年	4,779,086	113.8
2022年	4,201,320	94.4
2021年	4,448,340	96.7

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

■使用済自動車引取 (電子マニフェスト) 実施状況
2025年5月度 引取工程 214,625件 (前年同月比97.1%)

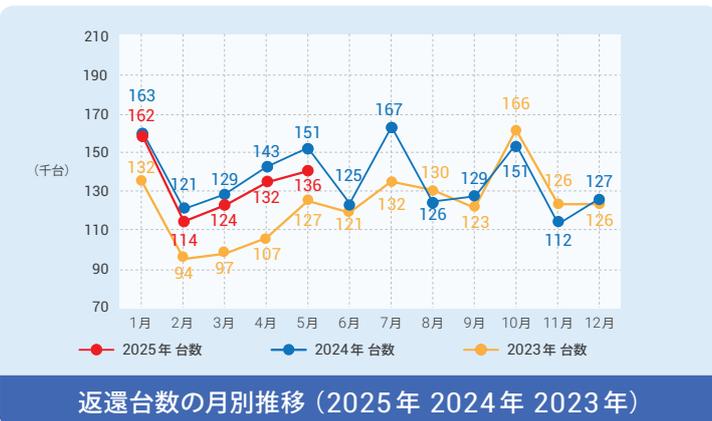


年累計	件数 (件)	前年比 (%)
2025年 (5月まで)	1,083,807	95.0
2024年	2,607,112	95.5
2023年	2,731,329	98.6
2022年	2,769,122	87.5
2021年	3,165,022	100.8

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

■中古車輸出に係る返還台数※
2025年5月度 136千台 (前年同月比90.1%)

※中古車の輸出に伴い、預託していたリサイクル料金を返還した台数



年累計	台数 (千台)	前年比 (%)
2025年 (5月まで)	668	94.5
2024年	1,644	111.0
2023年	1,481	115.7
2022年	1,281	95.5
2021年	1,342	107.2

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

06 ▶ JAERA 賛助会員の紹介

株式会社イチネンアクセス

株式会社イチネンアクセスは、イチネングループの機械工具販売事業の一角を担っており、自動車のアフターマーケットにおける補修部品を軸とし機械工具及び自動車整備工具など幅広い商材を取り扱っております。



株式会社 イチネン アクセス

【安全で質の高い自動車補修部品・整備機器の販売】

弊社は自動車のアフターマーケット市場を主な事業領域としており、製造業と小売業とをつなぐ一次卸売業の役割を担っております。

自動車補修部品・整備用機器、工具などを取扱う専門商社として自動車ユーザーの皆様へ安全で質の高いカーライフを提供し続けております。



【整備用機器】

【作業効率UPのPRO向け工具の販売】

自動車部品を取り扱うPROユーザー向けに、耐久性のある高品質な工具を提供しております。

工具、自動車整備機器、自動車補修機器、の卸売事業以外にも、自動車整備機器やプロ向け工具、一般工具といった製品の開発販売もおこなっております。PRO必須のクオリティを重視した製品の確かな品質を保証いたします。

JAERA会員の皆様へ、弊社の多種多様な事業展開と全国約30拠点からの幅広いネットワークで、皆様の幸福と利益の追求に向けた業界全体の発展の一助となるべく取り組んでまいります。



【ポータブル電源】



【各種工具】

JAERA 会員様向け 工具セットのご提案



07 ▶ JAERA では賛助会員を募集しています!

JAERA (日本自動車リサイクル機構) は、使用済自動車の適正処理と自動車リサイクル部品の活用普及によって地球環境保全を推進し、社会に貢献することを目的に活動しています。

近年、自動車解体業界はカーボンニュートラルや資源循環などで注目を集めており、多くの方々に賛助会員としてご賛同いただいております。賛助会員になると、最新の業界情報、取り組み成果、イベント案内や会社PRサービスなどを受けられ、リサイクル推進の一翼を担うことができます。持続可能な未来のため、皆様のご参加をお待ちしています!

申し込み[こちらから](#)



08

鉄スクラップ最新情報

[提供：日刊市況通信社]

6月第4週（23日）の鉄スクラップ動向



6月23日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	40,000 ~ 41,000	様子見
	南関東	40,000 ~ 41,000	様子見
	浜値	40,000 ~ 41,000	様子見
名古屋		40,000 ~ 41,000	様子見
関西	大阪	40,000 ~ 41,000	続落
	姫路	40,000 ~ 40,500	続落

海外の鉄スクラップ市場はアジア中心に弱含み気配続く

海外の鉄スクラップ市場は、米国国内が概ね横ばい、トルコ市場が連休明けからほぼ様子見ながら、アジア各地で米国玉輸入を含め下落の動きが見られ、全体的には依然として弱含み気配が続いている。台湾向けコンテナ積み鉄スクラップ価格は、先週末から週明けにかけても基調の弱さが継続している。シッパーのオファーは先週前半のCFR300 ~ 305ドルから高値が消えてCFR300ドルに寄る展開となった。台湾需要家のビッドはCFR290 ~ 295ドルと先週から横ばいで推移しているが、成約につながるのはCFR290ドル寄りだ。

軟調感が続く背景には、主にアジアに向けて中国産の安値のビレットが流通している点が挙げられる。中国海関統計の確報では、2025年1 ~ 4月の中国のビレット輸出は前年同期比291.6%増の334万4千トンと急増している一方、単価は同16.8%安の456.3米ドルと値下がり進行。特にインドネシア向けは同673.4%増の81万8千トンと7倍以上に激増しているほか、フィリピン向けも同395.0%増の46万3千トンとほぼ5倍。これが鉄スクラップに対しても弱気材料となっている。

関東 発生・流通が盛り上がり大勢様子見

関東市場は、市中玉の発生・流通が盛り上がり、メーカーやシッパーへの入荷は不安定な状態が続いている。船積みを実施するシッパーなどの一部需要家は入荷促進のためのスポット的な値上げを実施するなど品種や地域により動きはまちまちだが、域内価格の指標となる東京製鉄2拠点にも動きはなく、大勢様子見の状態が続く。関東地区のH2炉前実勢価格は40,000 ~ 41,000円中心。H2浜値も40,000 ~ 41,000円中心で並んでいる。

東海 鉄スクラップ市況は様子見横ばいで6月下旬入り

東海市場の鉄スクラップ市況は様子見横ばいの推移のまま6月下旬に入った。4月下旬の需要家筋の値下げ改定以降、新断の高値修正の値下がりを除いて約2カ月にわたって膠着した相場展開が続いている。市中スクラップの発生・荷動きが低調な一方、6月の東海主要電炉生産が増加し、鉄スクラップ需要量が回復すること、一定量の船送りが発生していることが域内需給を調整している。H2炉前実勢価格は40,000 ~ 41,500円中心。

大阪 需要減退を受け鉄スクラップ市況は続落

大阪地区の鉄スクラップ市況は続落した。目立つような荷余り感はないながらも、需要減退を受けて、電炉筋の大勢が追随値下げを実施してきたことにより、目先も不安定な展開が避けにくい状況だ。ただ、市中では荷受け制限下での値下げに対する抵抗は大きいため、「東鉄に動きがない以上、地区単独で積極的に下げ向かうような雰囲気はなさそう」（ヤード業者筋）との指摘もある。H2炉前実勢価格は、40,000 ~ 41,000円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、6月23日午後時点のもの)

09

▶ お知らせ — 公益財団法人自動車リサイクル促進センターより

自動車リサイクルシステム大規模改造に係る説明動画をアップしました!

平素より自動車リサイクルシステムの運営にご協力を賜り、誠にありがとうございます。

2026年1月に予定している自動車リサイクルシステムの大規模な改造について、事業者の皆様に必要な変更点や新たな機能の概要を説明した動画を、JARSホームページにて公開しました。

多くの事業者様にご視聴いただき、新システムに切り替わることをご理解いただけますと幸いです。

掲載ページは[こちら](#)

※[自動車リサイクルシステムホームページ](#)に設置した「大規模改造専用」のバナーボタンからご覧ください。



※自動車リサイクル博士

編集後記



「あいててよかった」—このキャッチコピーのCMを今の若い人たちは知らないでしょうね。国内でコンビニの24時間営業が始まって、今年の6月でちょうど50年を迎えました。今では当たり前となった無休営業は、セブンイレブン・ジャパンが昭和50年6月に全国で初めて私の住むこの郡山市の虎丸店で開始しました。

当時、この店で「地域になくってはならない店でありたい」との強い思いで勤務していた新入社員が、後にセブンイレブン・ジャパン、セブン&アイホールディングスの社長を歴任した井阪隆一氏です。電気やガスが止まり、周囲の商店が休業するなかでも、ロウソクの明かりと電卓で営業を続け、地域の方々から感謝されたというエピソードは、今も語り継がれています。

私たち自動車リサイクル業界も、人手不足や玉不足など課題が山積みではありますが、自動車産業やアフターマーケットの一端を担う社会的インフラとして、自動車ユーザーを支え続ける存在でありたいと思います。そのためにも、地域にとって「なくてはならない店」を目指す姿勢を、これからも大切にしていきたいものです。

広報部会長 田村 幸男

7 月の主な行事予定

※急遽、日程変更・延期の場合がございます。

- 4日(月) | 第4回広報部会 (WEB)
- 9日(水) | ブロック長会議 (対面・WEB)
- 17日(木) | 近畿ブロック会議 (対面)
- 18日(金) | 自動車リサイクル士 新規講習会申込
- 19日(土) | 九州ブロック会議 (WEB)
- 29日(火) | 東北ブロック会議 (対面)

